巻　頭　言

最高のものを創る技術者の罠

The Temptations of Engineers by Their Desire to Create Masterpiece Products

常務役員　デバイス事業部担当　　加　藤　之　啓
Yukihiro KATO

技術者は常に最高のものを創りたがる．しかし，技術者の考える最高のものがユーザーにとって最高の価値とは限らない．ビジネスにおいては，技術者の自己満足ではなく，世界のユーザーを満足させるものが最高の技術であり，価値である．

1984年に私が日本電装（現：デンソー）に入社し，最初に開発したセンサは最高の精度と最高の耐久性を持つ世界初の車載用半導体式高圧センサである．ドイツに出向した私は自らベンツに売り込み，受注に成功した．しかし，その価格は技術者が考える最高の価値と見合う評価を得られず，事業としてうま味のあるものとはならなかった．

1993年に帰任して，再度，次期型の高圧センサを開発する機会を得た．欧州のお客様（OEM）がどんなものを欲しがっているかは，肌で感じていた．お客様の求めていたセンサは，高級車ベンツと言えども，低価格でそこそこの性能だったのである．徹底的にコストダウンするための大胆な構造開発に躊躇することなくチャレンジした．その高圧センサは，現在も主力製品として年間2400万個もの需要を頂いている．

また，欧州では部品のモジュール化が始まり，機器組込み式のセンサの需要（機電一体の先駆け）があることも認識していた．開発を中止したセンサのセンシング部のみが商品になると閃き，BOSCHに持ち込んだ.「待っていました」とばかりに採用して頂けた．

世界を席巻した日本の半導体が，窮地に追い込まれている．投資規模や人件費，電力料金の差もあるだろうが，韓国が作ったDRAMはパソコン向けの安価なものであり，日本が作ったDRAMは大型コンピュータ向けの高級バージョンだった．90年代のパソコンの大躍進を予見した韓国が一気にシェアを奪い，勝負を決めた．

日本の叡智を結集して開発した高性能システムLSIは，日本の家電用にカスタム（ASCP）化したために，日本の家電の衰退と共に行き先を失った．今，世界を席巻しているのは，汎用性の高いシステムLSI（ASSP）である．

グローバル化が進み，ユーザーの嗜好の幅も広がっている．技術とアプリケーションの変化のスピードもどんどん速くなっている．このような中だからこそ，ユーザーの求めているものを以前にも増して的確に把握しなければならない．

デンソーの技術者は世界でも通用する凄腕の持ち主たちである．徹底的なグローバルマーケティングに基づく商品企画を行い，世界のユーザー＝お客様に満足と感動を与えられる技術開発を行うことが肝要である．デンソーの技術者が罠に嵌らず，その腕を磨き続ければ，デンソーが価値ある会社として永く社会に貢献できると確信する．